

■2017 年度第 3 回助成 応募団体 4 団体：合計助成額 1,096,261 円

団体名	NPO法人ワーカーズ風ぐるま (国分寺市)	特定非営利活動法人 VIVID (ヴィヴィ) (新宿区)
企画名	地域の高齢者支援のための 訪問介護事業所開設	就労継続支援 B 型事業所開設
助成の種類	① 新たな地域福祉事業の立ち上げ 準備費用	① 新たな地域福祉事業の立ち上げ 準備費用
団体の概要	<p>ACT の自立援助サービスの他に、国分寺市の育児支援家庭訪問事業、障害者等日中時間預かり事業の委託を受けて、事業を展開している。また独自の子育て広場を開設するなど、子育て支援事業にも力を入れている。</p> <p>介護保険事業は行っていないため、利用者が介護保険の対象になると、介護サービスに移行し、継続して支援することができず、切れ目のない支援をすることに限界を感じていた。</p>	<p>突然の事故や病気によって脳を部分的に損傷して生じる高次脳機能障害者の支援を行ってきた。高次脳機能障害は、記憶障害、注意障害、遂行機能障害、社会的行動障害といった外からは見えにくい症状が一人の当事者に複合的に表れるため、既存の障害者サービスの中では十分な支援が得られず、当事者も支援者も適合するサービスを希求している。</p> <p>VIVID は 2007 年に NPO 法人格を取得する前から高次脳機能障害者の支援活動を開始し、法人設立を経て 2009 年から 2 年間新宿区協働事業とその後の 8 年間は委託事業としてミニデイサービス、なんでも相談普及啓発のセミナーを実施し、新宿区内の保健センター、障害者福祉センター急性期病院、回復期病院の相談室等、サービス提供事業者等とのネットワークを築いてきた。</p>
助成を受けた事業内容	今まで自立援助サービスで培ってきた生活援助のノウハウを発揮できる訪問介護事業所を開設する。	高次脳機能障害者の社会参加と働く機会を広げるために「就労継続支援 B 型（障害者総合支援法）事業所」を立ち上げる。
助成項目	複合機、机、椅子、ホワイトボード、書庫、パソコン、シュレッダー、スチールワゴン、相談室用テーブル・イス、広告宣伝費	前家賃、作業室移動棚、パソコン一式 2 台、ラミネーター、ディスクカッター、キャッシュボックス
助成額	396,500 円	500,000 円
サポーター数	1 名	11 名

団体名	西東京・ワーカーズ まちの縁がわ「木・々」(西東京市)	東村山・ワーカーズまちの縁がわ本町(東 村山市)
企画名	「小学生向け勉強部屋」の開催	保健所の営業許可申請をするために 厨房施設の改修
助成種類	3 地域福祉に関わる事業継続のための サポート	3 地域福祉に関わる事業継続のための サポート
団体の概要	西東京・ワーカーズまちの縁がわ「木・々」 (以降、「木・々」)では、コミュニティー レストランの営業時間外のスペースを活用 して、地域の人々に開かれた居場所を提供 する活動してきたが、2017 年末でレストラ ン部門を終了することから、スペースの運 営をより一層、強化することになり、新規 企画の立ち上げを』行う。	設立して満 6 年が経ち、まちのほっと スペースの機能として位置付いてきた。し かし、事業運営はいまだ厳しい状況にあ る。ワーカーズメンバーが増えないこと、 経営状態も採算が取れず月次赤字が出る ことも発生している。
助成を受けた 事業の内容	「小学生向け勉強部屋」 3 年前から月間 1 回開催している「子ども 食堂」に集う小学生を対象に、夏休み期間 中に「みんな一緒に宿題をやろう」という 子どもたちの居場所を開催したところ、よ り継続的な形での学習支援が必要と感じる ようになった。そこで新たに子どもたちの 学習の場としての「勉強部屋」を開催する。	会食部門の赤字解消のため、保健所許可 を受けて、飲食店・喫茶店業務申請をする。 昼のランチの他、惣菜作り販売など行うた めには、現在の施設設備では許可が下りな いため、営業許可に必要な厨房備品や衛生 管理を整え、「まちのほっとスペース」が 継続できるように構想している。
助成項目	照明器具交換及び新設工事	洗面化粧台、全層流し台、水栓金具、給排 水配管工事費 1 式
助成額	100,000 円	99,761 円
サポーター数	5 名	2 名